

洋室に対応 地元デザイナーも協力

# 兄弟で「表具」に新風



伝統を守りながら、新たな表具づくりを目指す玉木龍一さん(右)と覚さん=いずれも玉木楽山堂

「作品は世界で一つ」。丁寧に、書と和紙を貼り合わせていく龍一さん

書などを掛け軸や巻物に仕立てる日本の伝統工芸「表具」を、若い世代にも親しんでもらおうと、神戸市東灘区の兄弟が奮闘している。表具店「玉木楽山堂」(同区住吉宮町)の玉木龍一さん(40)と覚さん(33)。「和室に合う厳かなもの」とのイメージを打ち破り、グラフィックデザイン画の掛け軸づくりなどにも挑戦。表具の新たな可能性を模索する。(藤本淑子)

## 神戸の玉木龍一さん、覚さん

楽山堂は、兄弟の祖 継ぐことになり、覚さんが勤めていた会社を父仁さんが1930年が創業者の思いを感じ取り、年に創業。龍一さんは辞め、龍一さんが指導の専門学校卒業後、2代目となった。書道や刺しゅうなどの目の父清春さんの下で、作品に込めた作修業を積んだが、20歳の作品に、和紙や布を貼り合わせて掛け軸や巻物、屏風などにする06年、清春さんが62歳の急逝。兄弟が跡を継ぐことになり、覚さんが勤めていた会社を辞め、龍一さんが指導の専門学校卒業後、2代目となった。書道や刺しゅうなどの作品に、和紙や布を貼り合わせて掛け軸や巻物、屏風などにする。玉木さん兄弟は、神戸では最も若い世代

## 「可能性は無限大」

の表具師だという。一方、住宅に床の間や和室がなくなりつつある近年、表具の世界も変わりつつある。兄弟は伝統技術を受け継ぐ一方、時代に合った表具づくりを研究。昨年12月には、地元デザイナーの協力を得て、グラフィックデザイン画を使い、洋室でも飾れるようにと、白を基調にシンプルな紙でおしゃれな掛け軸を作った。「書や絵などの作品を、紙と布地を使っていかに引き立たせるか。住環境が変わっても、可能性は無限大にある」と表具の未来を語る龍一さん。覚さんも「神戸の表具師としてモダンな作品を発信し、地元を盛り上げた」と意気込む。兄弟の挑戦は始まったばかりだ。



発行所  
神戸新聞社  
郵便番号 650-8571  
神戸市中央区東川崎町1-5-7  
http://www.kobe-np.co.jp/  
電話 (078) 362-2局  
社会部 7040 秘書室 7047  
経済部 7094 販売局 7066  
運動部 7095 営業局 7081  
文化 7044 地域 7086  
生活部 7045 活動局  
ご意見・質問は読者サポートセンター  
078・362・7056



■本社社会部  
〒650-8571  
神戸市中央区  
東川崎町1-5-7  
TEL...078-362-7040  
FAX...078-360-5501  
e-mail  
kobe-ban@kobe-np.co.jp  
■北神支局  
TEL...078-741-5814